

第5回整備事業者アワード2026 エントリーについて



第5回 整備事業者
AWARD 2026

後援（予定・申請中含む）

国土交通省

一般社団法人日本自動車整備振興会連合会・日本自動車整備商工組合連合会

一般社団法人日本自動車機械器具工業会

一般社団法人日本自動車機械工具協会

日本自動車車体整備協同組合連合会

全国自動車電装品整備商工組合連合会

一般社団法人日本自動車部品協会

全日本自動車部品卸商協同組合

主催：株式会社日刊自動車新聞社

整備事業者アワード開催の目的

自動車業界背景

100年に一度の大変革期を迎えたといわれる自動車業界は、今後はモビリティ産業へと変革し、市場環境の大幅な変化が予想されます。社会環境も少子高齢化が進み、高齢者人口の増加、生産年齢人口は減少傾向にあります。こうした状況は将来の保有台数減にもつながりかねない可能性があり、さまざまな対策の必要性に迫られております。また、特定整備制度、OBD検査の開始を始め、電動化技術など進化する新技術への対応が急がれます。市場環境の変化を前提に、需要動向変化に応じた先を見据えた事業展開が生き残りに必須となります。

日刊自動車新聞社の思い

このような市場背景を踏まえ、今後の整備事業者の`手本、となりうる取り組み事例に焦点を当てる表彰制度として整備事業者アワードを2021年に立ち上げました。2025年までに開催した同アワードの受賞事業者は合計で50社にのぼります。

個人・法人を問わず、自動車ユーザーを支える整備業界の将来的な活性化を目指します。

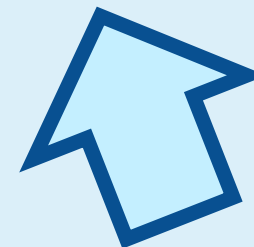
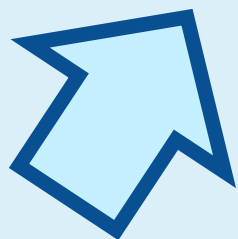
株式会社日刊自動車新聞社は2029年2月に創刊100周年を迎えます。自動車、モビリティ業界の皆さまのお役立ちにつながるような情報サービス企業として、今後も整備事業者アワードの開催を通して整備業界の発展・活性化をサポートし続けます。

整備事業者アワードとは

- 事業構造変革による新たな需要の掘り起こしに成功した事例など、この表彰制度では**事業規模や車検台数・販売台数などの数的指標で測ることのできない取り組み**重視し、評価します。
- 審査は公平を期するため、**外部審査委員**によって決定します。
- 業界の皆様のご協力のもと、成功事例の発掘・共有を継続的に進め、折々の市場動向に応じた**業界指針を示せるような表彰制度に成長させる**のが狙いです。
- 表彰だけでなく、受賞事業者の皆さまの取り組みの進捗などについて話し合うことができる場として「活動報告会～受賞者の志～」も2024年に開始しました。歴代の受賞企業の皆さま、後援団体、スポンサー企業の皆さまなどが関わる場、新たな気づきや学びの場として継続していきます。

表彰分野の概要

日刊自動車新聞社大賞



最も優れた取り組み事例の中から1つ、日刊自動車新聞社大賞を選定します

【イノベーション領域テーマ賞】

例

- ・法人ビジネス強化
- ・デジタルトランスフォーメーション
- ・専門性強化
- ・ユニーク経営
- ・その他

【経営改善領域テーマ賞】

例

- ・人材育成
- ・顧客リピート
- ・付加価値ビジネス創出
- ・業務効率化
- ・その他

【社会貢献領域テーマ賞】

例

- ・地域貢献
- ・環境対応
- ・事業継続計画
- ・その他

整備事業者アワードの募集要項

■表彰対象は**指定工場・認証工場**（部分認証を含む）・**特定整備認証工場**

＊大型車整備、自家整備、車体整備工場・電装整備工場等も対象とする

＊メーカー系ディーラーは除く（副代理店は可）

※国土交通省の行政処分（是正命令措置など）期間中の事業者は応募不可。審査の途中に判明した場合も対象外とする。

■整備事業者の手本となる、市場環境変化に対応した取り組みを表彰する。

事業規模や数的指標にとらわれず、**取り組みの切り口の斬新さ**や**継続性**を重視する。

■表彰分野は、「イノベーション領域」「経営改善領域」「社会貢献領域」の3領域に区分し、応募内容に応じて、各領域で審査委員会がテーマ賞を設定する。

また、**3領域全テーマ賞**の中から、「**日刊自動車新聞社大賞**」を選定する。

■表彰対象事業者は、**一般公募（自薦・他薦）**、**スポンサー企業推薦**、**日刊自動車新聞社推薦**でノミネートされた事業者の中から、外部審査委員会による**1次審査**、**2次審査**を経て**表彰事業者**を決定する。

■審査委員チームは、学識者、コンサルティング企業、整備学校関係者、人材育成企業、自動車関連ジャーナリストなどで構成し、公正かつ自動車整備業界を俯瞰できる識者を中心に構成する。

■ご応募いただきました整備事業者の皆さまに、過去の受賞企業の取り組み連載をお送りします。

各表彰分野の審査基準

●イノベーション領域

今後の自動車整備市場の変動（電動化、自動運転化、コネクテッド化など）に備え、整備事業者として生き残りをかけて新たな取り組みを展開している事例を評価する。

（テーマ例：海外展開、専門性強化、デジタルトランスフォーメーション、法人ビジネス強化、新規参入、ユニーク経営、その他）

●経営改善領域

経営改善に向けた継続的な取り組みで成果を挙げた事例を評価する。

（テーマ例：顧客リピート策、事業承継、人材育成、業務効率化、付加価値ビジネス創出、保険獲得策、経営再建策、その他）

●社会貢献領域

自動車整備事業者の強みである地域密着型経営を進める上で、社会貢献を目指した継続的な取り組みを評価する。

（テーマ例：地域貢献、環境対応、事業継続計画、その他）

【日刊自動車新聞社大賞】

- 上記テーマ賞受賞事業者の中から、今後の整備業界活性化に寄与する取り組みを大賞に選定する。
- 選定の際には、他事業者の参考になりやすく、広く整備業界の底上げにつながる影響力の大きい取り組みであるかどうかを重視する。

スケジュール

一般公募・スポンサー推薦募集期間	2025年10月1日～2026年1月12日
スポンサー企業様募集期間	2025年10月1日～12月26日
受賞企業による取り組み進捗発表会紙面紹介	2025年12月中旬
事務局書類審査	2026年1月末
審査委員一次審査	2026年2月中旬
審査委員二次審査	2026年3月上旬
表彰結果発表	2026年3月末
表彰式開催（都内ホテル）	2026年4月20日
整備事業者アワード2026新聞特集発行	2026年5月
整備事業者アワード2026受賞企業連載	2026年6月～

第5回整備事業者アワード2026審査委員

審査委員（順不同）	所属
審査委員長 須田 義大	学校法人片柳学園東京工科大学 教授 片柳研究所未来モビリティ研究センター長 東京大学 名誉教授
廣瀬 敏也	芝浦工業大学 工学部教授
山尾 百合子	株式会社メイン 名誉会長・創業者
佐藤 康夫	学校法人小山学園理事
泰楽 秀一	株式会社杉戸自動車 代表取締役社長 日本自動車車体整備協同組合連合会副会長
泉山 大	自動車整備ジャーナリスト・プロジェクトD代表
新任 平井 隆志	株式会社地域デザイン創造社 代表取締役社長 えちごトキめき鉄道社長、佐渡市観光交通政策アドバイザー